三鷹市立第五中学校　令和8年度 【技術・家庭】 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	「技術」 ○豊富な知識や理解を有する一方で、手工具や機械の操作などの直接的な体験活動が乏しく、技能の習得に課題が見られる。習得した知識や技能を日常の課題解決に位置付け、工夫して応用や展開を図る活用力の育成が必要である。 「家庭」 ○学びを実践化し、自らの家庭生活や地域生活へと還元して定着させる主体的な姿勢が十分に育っていない。 実体験の不足を補うため、生活事象と学習内容を関連付けた実践的かつ体験的な学習活動の充実を図る必要がある。	「技術」 ○技術や科学技術に関する専門用語、工具および機械の正しい名称の定着が不十分である。 工具や機械の適切な操作方法、保守点検の定着に課題が見られる。 作業の目的に適した工具や機械を選択し、正しく活用することが苦手である。 「家庭」 ○家庭生活における直接的な実体験が乏しい生徒が多く見受けられる。 社会的課題への関心に個人差があるため幅広い視点を育む学習が求められる一方で、新しい知識を意欲的に吸収しようとする学習意欲が見られる。	「技術」 ○ワークシートやプロジェクター等を効果的に活用し、視覚的な教材提示を通じて知識の定着を図る。 ○工具や機械の操作の習熟に向けて、教員による模範演示の時間を十分に確保し、丁寧な実技指導を実施する。 「家庭」 ○生徒の日常生活に根ざした話題を導入で提示するとともに、授業での学びを実生活へ還元するための実践計画の立案を重視する。 ○被服製作においては、自己評価シートを活用して自己の気付きや学びを認識させ、主体的な学習課題の発見と次への改善につなげる。 ○師範の提示や標本の活用により、視覚的な理解と連動した実践的な技能の修得を図る。 ○学びを具体的にどのような生活場面で活用できるか振り返らせることで、生活改善に向けた意識の変容を促す。
第2学年	「技術」 ○情報端末等の普及により表面的な知識は豊富であるものの断片的であり、体系的な理解や実生活への応用および発展にはつながっていない。 ○技術科固有の専門用語や特殊な概念について、十分な定着に至っていない生徒が多く見られる。 「家庭」 ○食生活の分野において、授業で習得した知識や技能を自らの家庭生活の中でどのように活用・実践できるかを深く追究させることが必要である。	「技術」 ○技術や科学技術に関する専門用語、工具および機械の正しい名称の定着が不十分である。 ○工具や機械の適切な操作方法や保守点検の定着に課題が見られる。 ○作業の目的に応じた適切な工具や機械の選択および活用が困難である。 「家庭」 ○日常生活での体験や知識と学習内容との関連付けが可能である一方で、これらを実際の生活と結び付けて捉える生徒は少数にとどまっている。 ○食生活領域において、栄養素と疾患や症状との関係性について、一時的な理解に留まり確実な知識として定着していない例が多く見られる。 ○自身の身体症状と不足する栄養素を関連付けて思考できる生徒の増加が見られる。 ○模範動画等の視覚教材を活用した実践的な技能習得に主体的に取り組む姿勢が定着しつつある。	「技術」 ○ワークシートやプロジェクター等を活用し、視覚的な教材提示を通じて知識の定着を図る。 ○工具や機械の操作習熟に向けて、教員による丁寧な模範演示を行うとともに個別指導の時間を十分に確保し、確実な技能の修得を図る。 「家庭」 ○生徒が日常で触れている多様な情報と授業内容との関わりについて、具体的な事例を提示しながら体系的な理解を促す。 ○授業の振り返りにおいて、実際の生活のどのような場面で活用できるか具体的に記述させることで、実生活での応用像を鮮明に捉えさせる。 ○実技理解の向上に向けて、引き続き視認性の高い模範動画の制作と充実に努める。
第3学年	「技術」 ○授業で習得した知識や技能を、実際の生活や地域社会の課題解決に向けて主体的に実践・展開しようとする姿勢に課題が見られる。 ○手工具や機械の操作に対する身体的な習熟度が十分とは言えず、自在に活用する段階に至っている生徒は少ない。 「家庭」 ○被服製作において、前年度までの既習内容を基礎・基本として応用・発展させることができている。 ○各作業工程における技能の目的や意義を十分に理解した上で、主体的かつ見通しをもって実習に取り組んでいる。	「技術」 ○木材やプラスチックおよび金属等の材料選択において、製品の用途や使用目的に合わせて適切な素材を検討・選定するという高度な思考に至る生徒は少ない。 ○技術科の学びが現代世界における環境問題や資源問題の解決に直結する重要性を有していることについて、十分な認識や理解につなげられていない。 「家庭」 ○被服製作において、既成の仕様にとらわれず個人のニーズや身体的特性に応じた工夫・応用を加える力が十分に育っていない。 ○実習の見通しをもち、作業工程に応じた計画的な時間配分を行うことに課題が見られる。 ○基礎的な補修技術の習得状況において、生徒間に顕著な個人差が見られる。	「技術」 ○木材やプラスチックおよび金属の実物標本を比較提示し、各素材の構造的特性や長所・短所を統合的に捉えわれるようにする。 ○社会や地域で利用される機械や車両および工具の構成素材を題材とし、用途に応じた素材選定の理由についてワークシート等を活用して考察・理解する。 ○エネルギーの形態変換に伴う損失に触れつつ、エネルギーの効率的な利用が地球温暖化防止や環境保全に果たす役割と重要性を深く理解できるようにする。 「家庭」 ○作品製作において製作計画表等を活用し、自らの製作目的の明確化と工程管理に基づいた見通しのある計画立案能力を育成する。 ○用具の適切な操作および活用法の定着に向けて、少人数グループ単位での機動的な模範提示を実施する。 ○実技評価の実施前に丁寧な個別指導の機会を設け、個に応じた具体的改善項目をフィードバックすることで技能の習熟を図る。